

# EEM220 建築計画各論第一

2年 3,4クォーター

担当教員 原田 陽子

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 月曜日・2時限

## 授業概要

わが国における建築計画学は、特に戦後の大都市への急激な人口増に対応するための住宅供給を背景に発展してきた。これまでの建築計画学や建築設計では、計画者や設計者中心の視点から、建物の間取りなど住宅内部や建物単体、敷地内部を主眼にした研究や設計が進められてきた。

しかし、今後の急激な人口減少時代を迎える都市の縮退期の中で、建築計画学の役割は、建物や計画敷地単体、あるいは新しい建築を計画することだけでなく、既存の建築のリノベーションや空き地や空き家の利活用、建物周辺の屋外空間のデザイン、周辺環境との調和、機能や使い方などソフトを含めたデザイン、居住者や利用者参加による計画・デザインなどが求められている。

こうした中で本講義では、建築や計画敷地単体としてだけではなく、時代や社会的背景、立地や周辺環境を総合的に考慮し、ハード・ソフトの両面から、建築とそれを取り巻く環境を計画・デザインする能力を養うことを目指す。

## 到達目標

わが国における住宅や住環境計画といった建築計画の取り組みの変遷や多様性を把握し、居住者や利用者参加による計画、既存の建物活用、時間軸を考慮した計画、建築と周辺環境との関係性などの重要性を理解し、今後の建築計画を行う上で考慮すべき課題について考察を行う。

## 先修科目

特になし

## 教科書・参考資料等

教科書は用いずに、参考資料は必要に応じて授業の中で配付する。

## 授業の方法

毎回、具体的な事例のスライドを用いながら建築を計画する上での重要な考え方を説明する。現地視察等のレポート課題も行い、具体的な事例を通じた考察を重視して進める。

## 成績評価

成績は、レポート、課題、試験により採点する。

## 成績

50% 課題・レポート

50% 試験

## 授業スケジュール

第1回：住宅・住宅地の計画とデザイン①（住宅、住宅地、居住様式の変遷）

わが国における住宅、住宅地、居住様式の変遷について概観する。

第2回：住宅・住宅地の計画とデザイン②（住宅の地域性、場所性）

わが国における住宅の地域性、場所性について概観する。

第3回：住宅・住宅地の計画とデザイン③（住宅の個別性と多様性、領域化）

わが国における住宅の個別性と多様性，領域化について概観する。

#### 第4回：集合住宅地の計画とデザイン①（集住形態，共用空間，コミュニティ）

集合住宅地の集住形態，共用空間，コミュニティについて，概念と具体例について紹介する。

#### 第5回：集合住宅地の計画とデザイン②（大規模住宅地，ニュータウンの計画）

大規模住宅地，ニュータウンの計画について，概念と具体例について紹介する。

#### 第6回：集合住宅地の計画とデザイン③（郊外団地の再生）

郊外団地の再生について，現状と課題と共に，日本と海外の先進事例について紹介する。

#### 第7回：集合住宅地の計画とデザイン④（コーポラティブハウスとコレクティブハウジング）

コーポラティブハウスとコレクティブハウジングについて，概念と具体例について紹介する。

#### 第8回：地方都市の都市・住環境の実態と再生手法

地方都市の都市・住環境の実態と再生手法についての概念と共に，福井や全国各地の中心市街地や郊外における低未利用地を活用した先進事例等の取り組みの具体例を紹介する。

#### 第9回：展示空間・図書館の計画とデザイン

展示空間・図書館の計画とデザインについて，概念と国内外の先進事例を紹介する。

#### 第10回：宿泊・医療施設の計画とデザイン

宿泊・医療施設の計画とデザインについて，概念と国内外の先進事例を紹介する。

#### 第11回：利用者の参加による計画とデザイン

利用者の参加による計画とデザインについて，概念と国内外の先進事例を紹介する。

#### 第12回：既存の建物を活用した計画とデザイン

既存の建物を活用した計画とデザインについて，概念と国内外の先進事例を紹介する。

#### 第13回：時間軸を取り入れた計画とデザイン

時間軸を取り入れた計画とデザインについて，概念と国内外の先進事例を紹介する。

#### 第14回：建築と周辺環境との関係性，ランドスケープデザイン

建築と周辺環境との関係性，ランドスケープデザインについて，概念と国内外の先進事例を紹介する。

#### 第15回：授業のまとめ

第1回から第14回までの授業のおさらいをし，授業のポイントの確認を行う。

### 事前・事後学習

---

1. 授業のスライド資料は事前に指定したURLからPDFとしてダウンロードできるようにしている。講義聴講の前に対応する資料を一読すること(予習)。
2. 毎回の授業においてミニレポートを出し、授業の内容の復習ができるような質問項目を設けたり、講義内容を踏まえた事例見学に基づくレポート課題を出している。また、講義聴講の後に、講義された内容・配布資料について理解を深めること(復習)。